

ランチタイムミーティング参加記

登壇者：室町さやか先生

2024年6月24日、今年度2回目となる人文研究センター・ランチタイムミーティングが開催された。登壇者は、今年度に教育学科に着任された室町さやか氏だ。専門は音楽学、音楽教育学。最初の自己紹介で圧倒されたのが、その活動の幅の広さだ。保育園や幼稚園での音楽やわらべうたを取り入れた子育て支援の活動から、テキストマイニング分析を取り入れた音楽授業の専門的な分析まで、いくつものレパートリーがある。そのなかで今回のお話の主題となったのは、室町氏のライフワークともいえるべき18世紀ヴェネツィア的女子音楽教育機関オスペダーレ・デッラ・ピエタである。

オスペダーレとは英語にすればホスピスにあたり、孤児や病人を匿う救貧院のような事前施設として中世以降のイタリア、とりわけヴェネツィアにいくつか見られたものである。ただ、そのなかでオスペダーレ・デッラ・ピエタは別格である。ここは女子限定の施設だが、ここではこの女子たちに音楽教育を施し、ひとつの楽団を構成していた。それもヴィヴァルディが一時教師をつとめ、その名声は隣国フランスの思想家ルソーが足を運ぶほどのものだったのだ。

室町氏はこのオスペダーレ・デッラ・ピエタについて、現地を訪れ、当時の資料を含む関連資料を丹念に分析し、その全容を明らかにする。ここでの音楽教育がどのような組織によって担われていたのか、主要な人物は誰か等々はもとより、圧巻だったのが、そこに現れる登場人物の同定だ。今日であればテレビやインターネットの映像資料もあるが、もちろんそうした手段は使えない。しかも女子の名前の表記は時期によって変化する。数々の資料を読み解くことで、そうした困難を乗り越え人物の同定にいたるその手つきはさながら探偵のようだった。

もちろん音楽教育学という枠内だが、室町氏の研究はこのように幅広い射程をもっており、参加者の関心を強く惹きつけた。女子教育の歴史、福祉施設の歴史という観点で歴史学者の興味を引くのはもちろん、ウィーン少年合唱団との対照や、宝塚歌劇団からAKBグループにいたるまでの女性による音楽グループの育成といった問題にも通じるところがあるように思われた。それは、室町氏が再構成するこのオスペダーレ・デッラ・ピエタの存在自体がきわめて魅力的なことによるだろう。軽やかな声でまるでオペラのようにお話しださる室町先生のお話を伺いつつ、しばし18世紀ヴェネチアの様子を夢想しながら、オスペダーレ・デッラ・ピエタについてのドラマや映画があればより多くの人々にその魅力が伝わるにちがいないと思われた。

渡名喜庸哲(文学部文芸・思想専修 教授)